

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



梅雨明けと、ほぼ時を同じくして
気温と湿度が急上昇。

今まで、肌寒い日が続いたため
急激な変化に戸惑っています。

体調は如何でしょうか？

水分補給、十分な睡眠、バランスの良い食事を心掛けると共に、
暑いからと言ってクーラーの掛け過ぎにも注意して、お元気で
お過ごしくださいね。

子供たちが楽しみにしていた夏休みが始まり、
ご家族一緒に過ごす時間が増える喜びの反面、
お母さんたちは、いつもより忙しくなるかもしれません。
けれど、子供たちの成長を見守る貴重な時間になると思います
ので、是非一緒に楽しんでください。



事故やケガには十分注意をして、ステキな
思い出を沢山増やしてくださいね！

失敗事例から学ぶ家づくり成功の秘けつ！（10）

新たなテーマとして、家づくりの際に注意すべき大切なポイント
を書かせていただいています。ご参考になれば幸いです。

【予想外のトラブルが発生・・・】

私達が日々生活する中で、全く予想もしなかったことが次々と起き、
驚かされたり、慌てたり・・・という場面に遭遇することは少なくありません。

家を新築した時でさえも、いろいろなことが起きてしまうことがあります。

例えば、防犯のために付けた人感センサーが、近くにある浴室換気扇から出る水蒸気に反応してしまい、
電灯が点いてしまった・・・等など。

新居に引っ越し後、こんな思いがけないことが起きる場合があります。

又、建て替え時に、隣家の上下水道が敷地の中に位置していることが判って急遽対処したり、
基礎工事を始めた途端に、土の中から
コンクリート等などの廃材が出てきて
工事が一時ストップしてしまうこともあります。



このように現場では、時として予想もしなかったことが起こり得ます。

こういったトラブルは、事前に十分調べたり、知識を予め得るようにしたりして、予防策を講じておくしかありませんが、万が一こんなことが起こってしまった時には、住宅会社に協力を頼み、一緒に解決していくことをお勧めします。



家づくりにおいて最も大切なことは、住まわれるご家族の家づくりに対する熱意と、家づくりをさせていただく住宅会社の誠意、工事に携わる職人さんたちの技術は当然ながら、加えて家やそこに住むご家族に対する愛情、これらが一体となり皆の思いが一つになってはじめて良い家が完成すると確信しています。

私達は、これからもこんな住まいづくりを続けてまいります。

次回に続く

「海の日」

「海の日」は、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」という趣旨で、1996年に国民の祝日に制定されました。国土交通省によると、「世界の国々の中で海の日を国民の祝日としている国は、唯一日本だけ」とのことです。海に囲まれ、海の恩恵を受けながら発展してきた日本ならではの祝日といえます。当初は、7月20日が「海の記念日」でした。これは、1876年（明治9年）明治天皇の東北巡幸の際、軍艦ではなく、明治丸という灯台巡視船で航海し、7月20日に横浜に無事寄港したことに由来します。これが海洋国日本にふさわしいということで定められました。

2019年は従来通り7月第3月曜日なので7月15日ですが、2020年は東京五輪の開閉会式に合わせて「海の日」「山の日」「体育の日」が移動されるため、「海の日」は、開会式前日の7月23日（木）になります。



夏休みの思い出
～父がくれたドーナツ～



子ども達にとっては嬉しい夏休みが始まりました。社会人になると、なかなか長い休みが取りにくくなりますが、お盆を含む前後数日間は、多くの企業で夏休みが与えられます。

この期間を利用して旅行に出掛けたり、普段はできない趣味を思いきり楽しんだり、あるいは帰省し、懐かしい家族や友人と再会したり・・・とそれぞれ予定を立てている方もいらっしゃるでしょう。

今回は、以前聞かせてもらった夏休みの思い出のひとつをご紹介します。

大学を卒業後、就職して初めての夏休み。提出書類に両親の署名・捺印が必要になり、5ヵ月ぶりに実家に帰った時のことです。

最初は泊まる予定だったけれど、仲良くなった仲間と遊ぶ約束をしてしまった為、慌ただしく日帰りに変更してしまいました。

必要な書類には、母親に頼んで記入・押印をもらい用事が済んだので、さて帰ろうと玄関で靴ひもを結んでいた丁度その時、父が会社から帰ってきました。

僕は、口数が少なく、何かにつけて文句を言ったり愚痴をこぼす父親のことが苦手で、以前から一緒にいると息苦しさを感じていたので、父が帰宅する前にさっさと帰ってしまいたいと思っていたのです。

父が、「お前、今日は泊まるんじゃないのか？」と聞いたので、「何かと忙しいので帰る」と、ぶっきらぼうに答えると、父は手に持っていたドーナツの箱を僕に差し出し、「これやるから、電車の中で食べろ。道中長いだろうから」と言った。

渡されたドーナツの箱を手に駅に着くと、電車は行ったばかりのようで、ホームには、ほとんど人が

無く、次の電車が来るまで30分は待たされるはめになった。

仕方なくホームのベンチに腰掛け、少し空腹を感じてきたので、父からもらったドーナツの箱を開けてみた。中には、3種類のドーナツがそれぞれ3個ずつ並んでいました。きっと僕が帰ってくるのを知っていたので、家族3人で一緒にお茶を飲もうと思っていたんだなあ。



僕が9個もらっても一人じゃ全部食べ切れないよ。箱の中を覗き込みながら苦笑した。

その直後、ああ、父は、ただ怖くて難しい人じゃなく、口下手で優しくすることが苦手な不器用な人だったんだ・・・

そう思ったとたん、涙がボロボロ出てきた。

様々な感情や、たくさんの思い出が次々に浮かんで消えるけれど、どれもこれも切なかったり苦かったことばかり。

手持ちのポケットティッシュが無くなっても、ハンカチが、洗濯して干す前みたいにびしょびしょに濡れても涙が全然止まらなくて、結局1本後の電車が来るまでの間、駅のベンチでずっと泣き続けていたんです。

これが僕のしょっぱい思い出です。

如何でしたか？ すてきなお話でしたね。

「編集後記」

連日の暑さ、皆さんはどんな工夫をしていますか？ 「風鈴の音」「金魚鉢」「かき氷」などで涼を五感に訴える演出や、「うちわ」「蚊取り線香」など、日本古来から暮らしの中で使われてきた様々なツールを上手にライフスタイルに取り入れることで、情緒を味わいながら涼を楽しむことができます。お試しを！ 熱中症に気を付けて、暑い夏を乗り越えましょう。どうぞお元気でお過ごしください！

今月号もお読みいただき有難うございます。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子